

令和3年度「ちばっ子の学び変革推進事業」(検証協力校) 研究状況報告書

1 学校紹介

学区は、いすみ市の中心部になっており、産業や文化等でも中核的位置にある。本校では、学校教育目標を「がんばる子～自ら学び、心豊かなたくましい児童の育成～」とし、その具体的な姿を「自信と向上心をもって高まり続ける子」と設定している。学校教育目標の達成に向け、評価と対話を大切にしながら、日々の教育活動の実践にあたっている。

2 研究主題 (タイトル・サブタイトル)

自分の考えを進んで表現し、学び続ける児童の育成

～ふきだしを活用し、学習を振り返ることを通して～

3 研究の概要

(1) 児童生徒の実態と課題

本校の児童は、活発で活動に意欲的に取り組むことができる児童が多い。本校の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、記述式の正答率が低いことが明らかになっている。特に、根拠となる理由を言葉や数を使って説明する力に課題がある。日常の学習からも、自分の思いや考えを表出することに抵抗があったり、適切な言葉が見つからなかったりする児童が多く見受けられる。そこで、昨年までは国語科を中心に、自分の考えをもち、進んで表現できる児童の育成に取り組んだ。児童の書くことへの抵抗が減少するなど成果が見られた一方、書くための技能を高めさせることに課題が残った。

(2) 学力向上のための取組

学習の様々な場面で、児童が思ったことや考えたことを自由にノートに書かせるため、自分の思考を表出させるツールとしてふきだしを活用した。考えを記録させる手立てとしてもふきだしは有効である。ふきだしを活用した学習活動では、まずふきだしを活用したノート例を提示する。そして、1時間の授業を大きく4つ(問題把握、自力解決、比較検討、まとめ・振り返り)に分け、3つの場面でふきだしの中に書く視点を示す。その際、「わかった」「わからない」「できた」などの情意面のふきだしも児童の思いの表出ととらえ、認めるようにする。また、書かれたふきだしを授業の中で取り上げ、共有していくことで書くことへの苦手意識や自分の内にある思考を表出させる手助けとする。ふきだしを評価したり、「前の学習の△△を使えばできそう」「こっちの方が簡単かな」のような記述を教員が授業で意図的に取り上げたりすることで、ふきだしの内容も具体的になり、自分の考えの根拠や友達の考えたことのよさに迫ることができるようにした。

学習のまとめをした後、本時の自分の学習を振り返る時間を設定した。年度初めは、学校全体

として明確な視点を示していなかったため、児童が書いた振り返りの学習感想の内容も学級によって偏りがみられるなど、課題も多かった。そこで、学校全体で統一の視点を「わっしょい」という合言葉とした。「わかったこと」、「いっしょなこと」、「いかせそうなこと」について児童の発達段階を考慮し、低・中・高学年ブロックで、児童に書かせたい振り返りの内容の具体化を図った。自分の思考や行動を客観的に振り返ることで、自身の学習状況の理解が深まったり、既習とつなげて考えたりするなど、学び続ける児童の育成にもつながるように取り組んできた。

(3) 加配教員（学習サポーターを含む）の活用

少人数指導2名、学習サポーター1名を算数科のTTとして活用している。各学年の算数科に毎時間1～2名を配置し、学習内容に応じて少人数やTTと学習形態を変え、個別の支援を丁寧に行い、学力の向上を目指している。

4 成果

- ・ふきだしを活用することで、児童は自分の思いや気付きを表出しやすくなり、ノートに進んで自分の考えを書くことができるようになった。
- ・見通しでふきだしに自分の考えを書かせることで、振り返る際に、自分の思考の変容に気付きやすくなることが分かった。
- ・振り返りの視点を合言葉にすることで、視点に沿って振り返りを書くことができるようになってきた。

5 今後の課題

- ・ふきだしに自分の思いや気付きを書くことができるようになってきているが、記述内容に差がある。児童に書かせたい内容を教師が意識し、より数学的な見方・考え方に沿った記述が増えるよう、手立てを講じる必要がある。
- ・「わっしょい」の視点について、具体的な根拠がない記述も多い。今後も、実践を重ね、それぞれの視点をさらに明確化し、その視点に沿った具体的な手立てを明らかにする必要がある。